



大豆の開花は8月3～5日頃でした。品質1等・2等
を確保するためにマメシンクイガ・紫斑病の防除を行
ないましょう。収穫を見据えた雑草対策を！

1. 病虫害防除

紫斑病、マメシンクイガは、収量・品質に大きく影響を及ぼすため、圃場を見回り、開花期後の日数等から適期を逃さないように防除しましょう。なお、茎葉が繁茂している時期なので、莢まで薬剤が十分付着するよう丁寧に散布しましょう。

① 紫斑病

開花期以降比較的涼しく、雨の多い年に発生が多くなります。品質に対する影響が大きい病害なので、開花期25日～35日後に必ず薬剤散布を行いましょう。

② マメシンクイガ

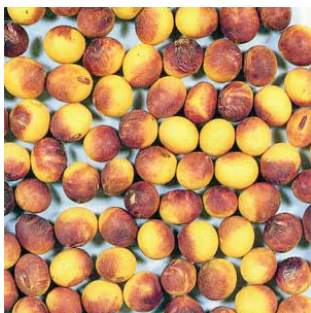
マメシンクイガは、大豆の病虫害の中でも被害が最も多く、連作圃場を中心に被害が深刻化しています。

防除は、8月下旬（25日頃）と9月上旬（前回散布10日後）の2回実施することが重要です。1回目の防除に混合剤を使用すれば紫斑病との同時防除が可能となるので効率的です。

※連作によりマメシンクイガの密度が高まり被害を受けやすくなるため、できるだけ連作を避けることが大切です。

③ アブラムシ類

ジャガイモヒゲナガアブラムシなどのアブラムシ類が急激に多発することがあるので、葉裏を観察するなどし、発生状況を良く観察して、早めの防除を行いましょう。防除は株元まで薬剤が十分届くよう丁寧に散布しましょう。



紫斑病



マメシンクイガ



ジャガイモヒゲナガアブラムシ

2. 雑草対策

オオイヌタデ等の大型雑草が目立つ圃場があります。大型の雑草は収穫の妨げになるばかりか、汚損粒の原因になります。収穫の効率と品質を高めるために、今のうちにこれらの雑草を除去しましょう。帰化アサガオ類は開花・結実前に年3回（6～9月）は必ず防除（抜き取り、非選択性茎葉処理除草剤散布）を行いましょう。



農作業時の重大事故が発生しています！ゆとりある作業計画を！